

家庭と仕事の心理学 —子どもの育ちとワーク・ライフ・バランス—

尾形和男編著 2000円
「家庭」「仕事」「余暇時間」「地域への関わり」の4領域から、夫婦関係、家族成員のストレス、家族機能におよぼす影響についてライフステージに渡り実態を調査。

うつ病休職者の集団認知行動療法に関する混合型研究

中村 聡美著 8000円
当事者の語りから職場ストレスとの関連を検討し、「職場復帰のための集団認知行動療法」プログラムを用いて、再発・再休職予防の心理的支援のための示唆を得る。

睡眠障害に対する認知行動療法 —行動睡眠医学的アプローチへの招待—

M.ペルリス・M.アロイア・B.クーン編 岡島義・福田一彦監訳 3200円
眠りを妨げる妨害要因と質の良い睡眠をもたらす促進要因に注目し、睡眠障害の改善を目指す認知行動的アプローチの詳細な手順を紹介。厳選した抄訳による手引き。

児童・思春期の強迫スペクトラム障害に関する臨床心理学的研究

野中 舞子著 6000円
強迫性障害との関連が指摘されるチック障害を対象に、実態調査及び介入を実施。我が国の強迫スペクトラム障害への支援の発展に寄与する知見を提示する書。

エンパワーメント評価モデルに基づく予防プログラム —教員のバーンアウト—

池田 満著 4200円
教員のメンタルヘルス問題を概観し、バーンアウト予防プロジェクトを実施。プログラム開発と評価の理論的検討から、実効性及び持続的な実践についての考察を行った。

学生相談活動の発展に寄与する要因に関する研究

伊藤 直樹著 6000円
米国との比較から学生相談機関の歴史的経緯を考察。利用促進ならびに組織としての相談体制の発展に寄与する要因を実証的に検討し、今後の課題を明らかにする。

看護におけるcommunionの構造化

山下 裕紀著 7500円
脳卒中失語症患者と看護師との間にある身体をとおした間主観的なありようを、communion(交感)の概念を用いて明確化。看護における暗黙的实践、専門性の視覚化を目指す。

青年期の運動行動を規定する要因とメンタルヘルスとの関係

清水 安夫著 5000円
大学生の身体活動の促進に関して心理的・社会的・環境的な規定要因を探索。大学体育における効果的な介入方法とメンタルヘルス改善のための新たなアプローチを検討。

自己複雑性を高める介入プログラムの抑うつ低減効果

川人 潤子著 4500円
抑うつを低減する自己認知の複雑性に関する心理学的プログラムを開発。ランダム化比較試験デザインでの縦断的効果を検討し、プログラムの有用性を示唆する。

職業性ストレスの心理社会的要因に関する実証研究

高岸 幸弘著 6000円
職業性ストレスにおけるストレスサーーストレス反応を軸とした様々な心理社会的影響要因との関連を検証。縦断研究モデルを用いて、その因果関係を検討した新著。